

病棟とのカンファランスのために 「導入時患者カンファランス用紙」を作成して

中村真衣子、細越洋多子、柴田ひろ子、五十嵐伴子

保坂るり子、宮形 滋、原田 忠、木暮輝明

中通総合病院 血液浄化療法部

<緒言>

当病院は総合病院で、泌尿器病棟は混合病棟からなり、煩雑化された厳しい体制の中で、透析導入期患者が当透析室へ移行してくる。透析室から病棟へ出向いての、指導は特にしていない現状である（図1）。

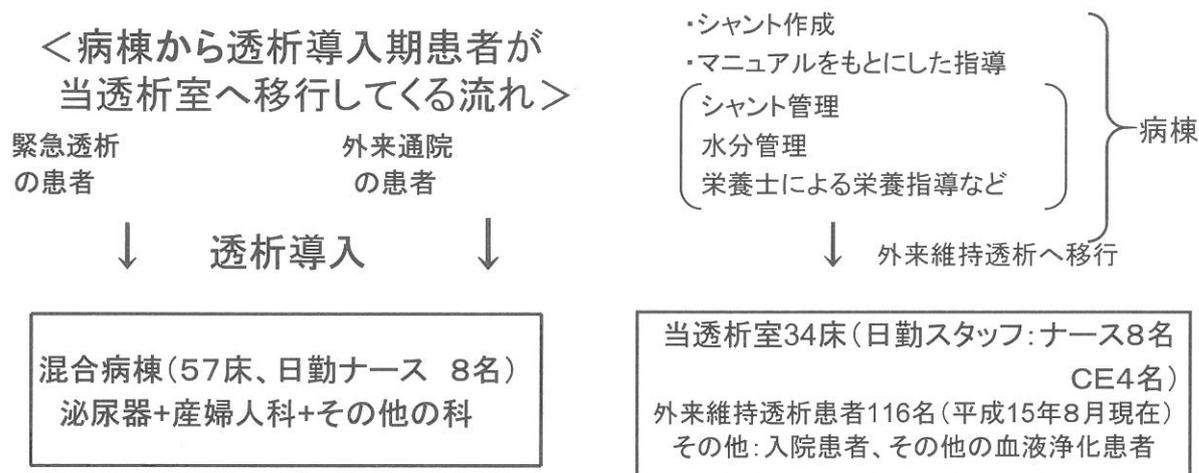


図1

<方法>

以前透析室では、病棟との導入期カンファランス時ノートに記録していたが、情報項目が落ちることが多く、情報収集が不十分であった。そこで、記録物を整理し、病棟との効果的な情報交換を図ることを目的に、透析室スタッフが「導入時患者カンファランス用紙」を作成し、5症例に使用した。その用紙を用いて、外来透析移行時期に病棟・透析室の受け持ち看護師、両主任、ソーシャルワーカー、家族が参加し、カンファランスを行った。

実際に使用している「導入時カンファランス用紙」である（図2）。病棟からの課題提起として、例えば、今後も治療を必要とする疾患についてや、今後要介護となる可能性が高い、高齢の二人暮らしの生活背景などを記入する。透析室の確認項目として、①入院中の指導については、患者本人の理解度・実践能力だけでなく、継続した自己管理ができるよう、キーパーソンや協力者の食事指導や内服薬の管理、シャント管理についての理解度の確認が必要である。内服薬の管理については、糖尿病性網膜症の患者や、高齢患者が増加している為、内服薬の管理が難しくなっており、一包化の必要性や視力の程度の確認をする。②の通院方法・キーパーソンの確認は、確

実に通院してこれるよう、通院方法が決められているか、確認する。③の介護保険申請の有無は、高齢患者や糖尿病性腎症、長期透析による合併症の多い患者にとって、介護タクシー・ヘルパーの利用をするうえで必要であり、確認していく。④の予想される要介護区分とケアプランは、日常生活状況やADL(日常生活動作)の変化によって、ケースワーカーと透析室スタッフがコンタクトをとる場合があるため、知っておく必要がある。他には、主治医から患者本人・家族へのムンテラ内容がある。看護上の短期・長期目標について、短期目標では、外来透析の生活環境に慣れる事や、導入期指導などが挙げられ、長期目標では、糖尿病などの合併症についてのフォローや自己管理を目標とする。

導入時患者カンファランス	
年 月 日	参加者 ケアマネージャー 居宅介護支援事業所
病棟からの課題提起	
透析室の確認項目	
① 入院中の栄養指導について (指導内容、本人・協力者の理解度、実践能力度)	
② 通院方法、キーパーソン	
③ 介護保険申請の有無 (有・無、申請中)	
④ 予想される介護度とケアプラン	
主治医からのムンテラ内容	
看護上の短期・長期目標	

図 2

<結 果>

良かった点は、カンファランスが用紙の項目にそって、落ち度なく行われた。外来維持透析移行後、通院方法などの予測される問題が明らかになり、スムーズに外来維持透析が可能となっている。病棟からの患者情報や問題提起から、患者にとっての問題、目標が明らかになり、透析室での看護計画に、継続している。

問題点のひとつに、導入期患者の心理的变化および受容度についての項目がなく、透析室での指導や精神的フォローをしていくうえで不十分であった。例えば、病識や理解度はあるが、なかなか水分制限や食事管理に結びつかない患者がいた。その原因が、透析について否定的で受容できていなかったこととは知らず、押し付けていた指導をしていたケースがあった。また、食生活についての項目がなく、実際の食事内容がどうなっているのか、摂取量や好みなど把握できなかった。その

ため、栄養士による食事指導後も、実際の食生活になかなか活かしていないケースがあった。

<考 察>

病棟・透析室間の、時間に余裕が無い体制の中で、この用紙を使用することにより、病棟との情報交換やカンファランスを落ち度なくスムーズに行ううえで有効であった。心理的变化および受容度については、見方の基準となる物差しがないため、スタッフの主観的な見方になってしまいがちである。また、患者の内面的な部分は複雑であり、それを知ることは単純なものではなく、難しいといえる。しかし、患者の言動や表情、態度などの項目を挙げることにより、今おかれている患者の心理状況が把握しやすくなり、その結果、個々に合った指導内容や患者への精神面での関わりがより適切にできると考える。

入院中は病院食であり、実際の食生活について詳しく知ることは、難しいことだが、食生活についての基本的な項目について知ることは、個々の全身状態や現在の状況に合った食事指導をしていくうえで大切である。今後はこれらの項目を加え、新たな用紙の作成に活用していく。また、カンファランスは退院予定の一週間前後に行われているが、入院中の早期のうちに解決できる問題を具体化し、解決することで、患者がゆとりをもって外来維持透析へ移行できると考える。よって、今後は中間カンファランスなどをタイムスケジュール化し、開催していくことを検討する必要がある。